

# ふるさと米子 探検隊

第18号

平和学習 米子にも空襲があったの巻 2016年3月30日



## 米子地方の空襲について

編／発行 米子市立図書館

TEL0859-22-2612 FAX0859-22-2637

http://www.yonago-toshokan.jp

今から71年前の夏、1945(昭和20)年7月のことでした。終戦まであとひと月もない7月の24日、25日、28日の三日間、米子地方を中心に、アメリカ海軍の空母から飛んできた艦載機(空母から飛ぶことのできる小型の戦闘機や爆撃機のこと)の攻撃により、たくさんの被害がでました。アジア・太平洋戦争も終わるころになって、なぜ米子地方が空襲を受けたのでしょうか。広島や長崎の原爆被害について学ぶことも大切ですが、私たちのふるさと米子市の戦争被害についても知っておかなければなりません。18号の探検隊は、2015年夏、米子市立図書館特別展示「米軍資料にみる米子地方空襲」で集めた資料をもとにしています。探検隊第18号を使って、改めて戦争と平和について考えてみましょう。

## 探検隊の参考資料

図書館には、みんなの探検を助けてくれるたくさんの資料があります。

- ・「鳥取県の戦災記録」鳥取県の戦災を記録する会／編・刊 1982 0920/T13
- ・「面瀬の沈船」大山町教育委員会 教育研究所／編 大山町 2016 Y398ダイ
- ・「米海軍機動部隊艦載機の岡山県南空襲」日笠俊男／著  
岡山空襲資料センター 2012 Y398ヒカ
- ・「その時、ここで 十五年戦争と鳥取県」  
鳥取県教職員組合・鳥取県高等学校教職員組合／編・刊 1996 Y39/T10
- ・「語り伝える空襲 ビジュアルブック」第5巻 安斎育郎／文  
新日本出版社 2008 Y200/カタ
- ・「太平洋戦争下連合軍の米子地方空襲について」(伯耆文化研究第12号抜刷)  
岩佐武彦／著 2013 Y224/イワ
- ・「米子地方空襲 米軍資料」(英文資料)①～⑥  
国立国会図書館所蔵 米国戦略爆撃調査団報告 (USSBS) より  
米子市立図書館／編 2015 Y398/ヨナ

(資料名の後の数字と記号は「請求記号」です(ラベルの番号)。資料がどこに置いてあるかを示しています。)

## アジア・太平洋戦争の歴史 急ぎ足で復習しよう!

1939年第2次世界大戦がヨーロッパではじまり、ドイツやイタリアが<sup>れんごうこく</sup>連合国と戦っていたころ、アジアでは日本が中国大陸に武力侵略<sup>しんりやく</sup>を続け、さらにインドシナ半島へも軍隊をすすめようとしていました。ドイツやイタリアと同盟を結び、アメリカやイギリスと対立を深めた日本は、ついに1941年12月8日、マレー半島とハワイの<sup>しんじゅわん</sup>真珠湾を攻撃しました。戦争が始まったころはいきおいがありました、西太平洋と中国大陸にひろがった戦線<sup>せんせん</sup>に、兵隊<sup>ぶっし</sup>や物資の補給<sup>ほきゅう</sup>(食糧<sup>しょくりょう</sup>など)をすることができず、しだいに戦況<sup>せんきょう</sup>は悪くなっていきました。戦って死ぬよりも、食べ物がなくなって死んだ兵隊の数の多いといわれています。現地<sup>げんち</sup>の人にとっても日本兵にとっても、悲惨<sup>ひさん</sup>で無謀<sup>むぼう</sup>な戦いが各地で続けられました。

1944年6月には中国・<sup>せいと</sup>成都から、11月には太平洋のマリアナ基地<sup>きち</sup>から、B-29という当時の最も大型の爆撃機<sup>ばくげきき</sup>が日本本土<sup>とうか</sup>を空襲して、大型爆弾<sup>たいがうばくだん</sup>を投下するようになりました。1945年の3月からは、10日の東京大空襲<sup>だいくうしゅう</sup>、12日名古屋、13日大阪、17日の神戸と大都市が次々に無差別爆撃<sup>むさべつばくげき</sup>を受けて焼野原<sup>やけのはら</sup>になり、たくさんの人々が犠牲<sup>ぎせい</sup>となって亡くなりました。

1945年4月から始められたアメリカ軍沖繩上陸作戦<sup>おきなわじょうりく</sup>での激しい戦闘<sup>はげせんとう</sup>が終わりかけたころ、アメリカ海軍は太平洋艦隊<sup>かんたい</sup>を再編成<sup>さいへんせい</sup>して、日本本土<sup>ほんど</sup>に残された最後の軍事力を徹底的に破壊しようとして計画を立てました。太平洋第3艦隊<sup>かんたい</sup>第38機動部隊<sup>きどうぶたい</sup>がその任務<sup>にんむ</sup>を与えられた艦隊でした。38.1、38.3、38.4艦隊。そのほかに、イギリス海軍の第37艦隊があり、航空機1300機以上となる大艦隊でした。米子地方の空襲は、38.4艦隊(第38機動部隊第4任務艦隊<sup>にんむかんたい</sup>)の、空母ヨークタウン、空母シャングリラ、軽空母ワズプから飛び立った艦載機<sup>けい</sup>によって、1945年7月24日、25日、28日の三日間にわたり実施<sup>じっし</sup>され、各地で大きな犠牲者<sup>ぎせいしや</sup>を出しました。



1944年当時の空母 ヨークタウン (CV-10) ㊦

この空母は90機から100機の艦載機<sup>の</sup>を載せ、32.7ノット(約60km)で移動<sup>いどう</sup>することができました。米子地方空襲には、同じクラスの空母 シャングリラと、7月28日には、軽空母ワズプからも艦載機が飛んできました。



はっかんちよくぜん  
発艦直前のF4U コルセア



F6F ヘルキャット

(写真は米子に飛んできたものと同型機種) ㊞

### ㊞ 艦載機の特徴

米子には2種類の艦載機が飛来しました。コルセアもヘルキャットも2000馬力を超える強力なエンジンで、たくさんの爆弾やロケット弾を翼の下につけることができました。操縦席は厚い鉄板で囲われていて、地上の対空砲火からパイロットを守っていました。

### ㊞ 空母から目標地点まで

7月24日と25日は和歌山県の沖合から、28日は高知県沖の空母から飛来しました。約400kmを1時間30分ぐらいで米子上空に到達。約1時間の攻撃の後、母艦に帰りました。4時間から5時間の飛行時間でした。米子空襲と同じ日に、呉市など中国・四国の地方都市を空襲しています。

### ㊞ 攻撃の特徴(米子空襲時)

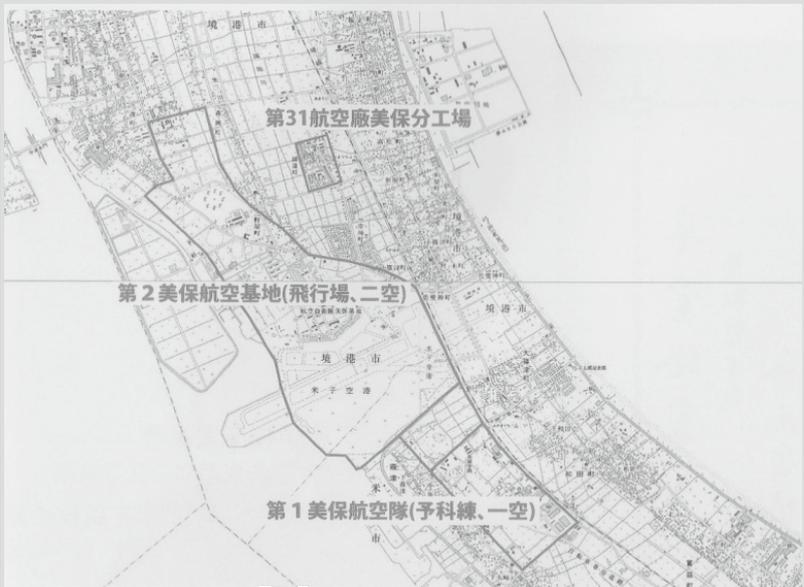
①260ポンド爆弾(約120kg)を、地上数百メートルで爆発させて広い範囲に被害を与える方法で、隠してある複数の飛行機や、対空砲火の陣地を攻撃しました。②260ポンド爆弾を目標の建物や飛行機に急降下して直接投弾しました。28日には500ポンド爆弾も使いました。③ロケット弾を放ち(下写真)、対空砲火の届かないところから、基地の飛行機や機関車、船舶を攻撃しました。④2000mぐらいの高さから地上すれすれまで急降下して、隠してある飛行機を次々に銃撃しました。

### ㊞ 主な兵器

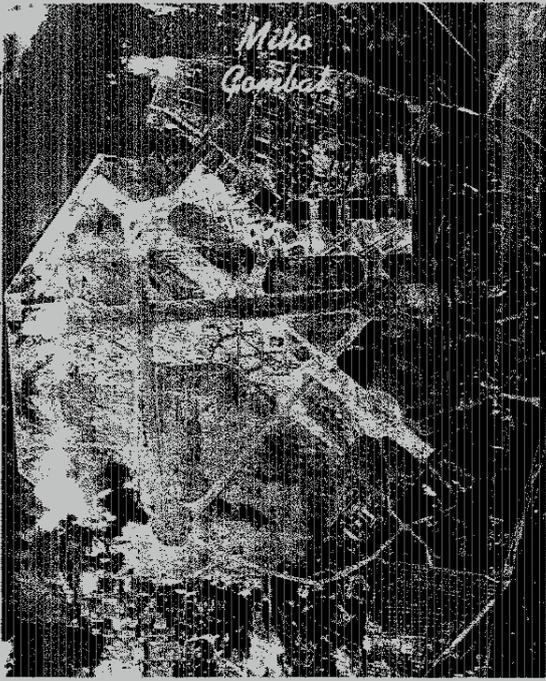
260ポンド破砕性爆弾は、鉄片が飛び散り被害を大きくする爆弾です。VT信管という新兵器で、爆発する高度を変えることができました。HVARという5インチ高速ロケット弾は、射程が5kmもあり、遠くから目標を狙うことができました。コルセア(下写真)が主にロケット弾を使ったようです。他に12.7mm機銃と、コルセアとヘルキャットの新型機は20mm機関砲も使いました。(6ページ写真)



5インチロケット弾を撃つコルセア  
(VBF-85com. より)



× 米軍機着水地点 (推定) ×



米軍が撮影した美保基地  
(VBF-85com. より)

美保基地の滑走路には爆弾が落とされませんでした。(日本の敗戦後、進駐軍が基地として使う計画だったからといわれています。)

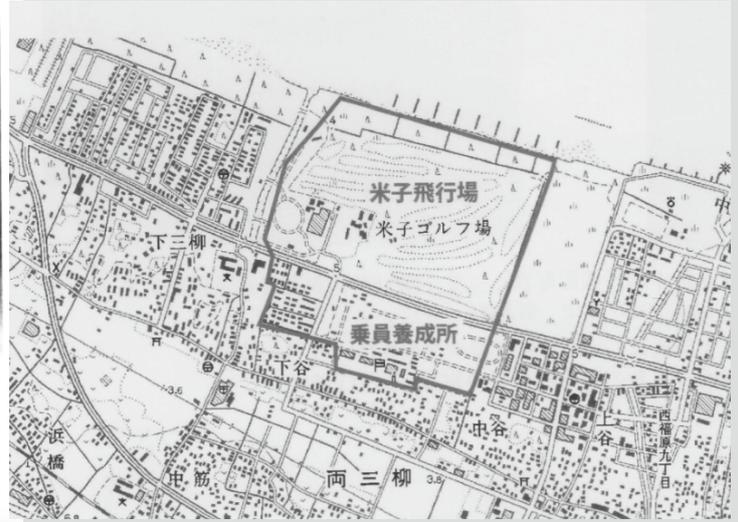
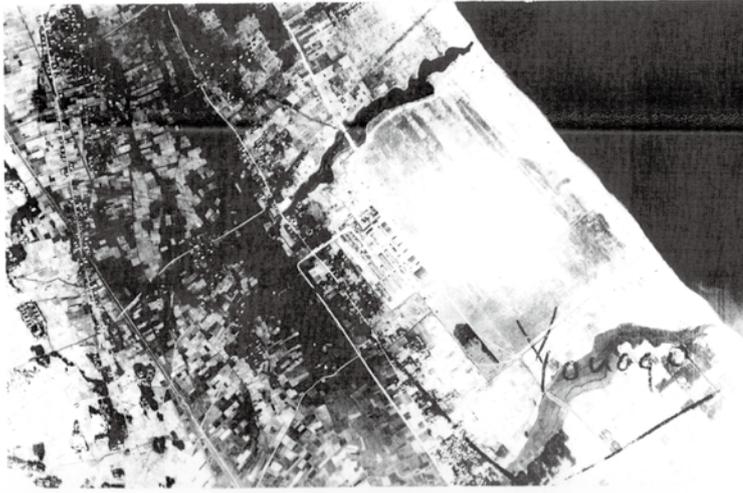


### ※主な攻撃目標となったもの

- ・ 美保基地 (第2 美保航空基地) ・ 三柳の陸軍米子飛行場
- ・ 美保／米子 飛行場近くに隠された軍用機

(「戦闘報告書」には、空襲前に撮影された写真分析の結果、二つの飛行場を合計するといつも100機近くの軍用機があった、と報告している。)

- ・ 第31航空廠 美保分工場 (美保基地のすぐ北側にあった軍事工場)
- ・ 米子駅 ・ 機関車 (大山口駅・弓ヶ浜駅・大篠津駅・湯町駅近くの布志名)
- ・ 境港や七類港の貨物船 (永安丸や第二伊勢丸ほか)
- ・ 日曹米子工場 (旧米子製鋼所) ・ 大谷変電所
- ・ 湯町水上基地 (島根県) ・ 大社 (新川) 基地



米軍が撮影した三柳の陸軍米子飛行場  
(USSBS 資料より)

• 3日間で 100 発以上のロケット弾が  
米子飛行場に撃ち込まれました。



第二伊勢丸沈没×

永安丸沈没×

※空襲の大きな被害

・7月25日には大山町名和沖で第二伊勢丸(884ト)と永安丸(3825ト)の乗組員だけで17名以上、28日の早朝には大山口駅近くで45名以上の列車乗客が死亡。同じころ、米子駅近くで7名死亡。この日のお昼近くの攻撃は宍道湖方面に向かい、玉造温泉の宍道湖側にあった湯町水上基地が爆撃にあい25名が爆死。このすぐ後、近くに避難していた機関車列車が空襲され、14名以上が死亡した。機関車と船は、大きな攻撃目標であったことがわかります。

## 空襲による主な被害

### 7月24日

- ・7月24日明け方空母シャングリラを飛び立った編隊は、一度美保基地上空まできて、厚い雲のため目標を確認できず引き帰した。帰る途中、岡山県の南部地方にたくさん爆弾を投下して多くの犠牲者を出した。
- ・24日午後からの攻撃では、境港の貨物船や美保基地の飛行機、格納庫が260ポンド爆弾被弾、銃撃を受ける。米子飛行場がロケット弾と銃撃を受ける。

### 7月25日

- ・米子飛行場に260ポンド爆弾とロケット弾。美保基地の飛行機に爆弾と銃撃。大篠津駅から弓ヶ浜駅に向かう機関車がロケット弾と銃撃被弾。昼ごろには大山町名和沖で、第二伊勢丸と永安丸がロケット弾と銃撃のため沈没。乗組員が多数死亡。
- ▲午前7時過ぎ、美保基地攻撃中のヘルキヤットが被弾。島根半島地蔵崎沖に着水。午後1時過ぎ、米子飛行場攻撃中のコルセアが被弾。地蔵崎沖に着水。2機のパイロットは飛行機搭載のゴムボートにそれぞれ避難、その後沖縄方面から13時間かけて飛んできた救難飛行艇で救助された。日本側の目撃証言によれば、片江沖30kmに午後1時45分ごろに着水した大型救難艇が約15分で2名を救助、脱出している。

### 7月28日

- ・三日間で最大の被害が出たのが28日。美保基地と米子飛行場以外でも、午前7時過ぎ、大山口駅東方600m付近で、空母シャングリラから飛来した編隊のうち、コルセア3機によるロケット弾と銃撃を受け死者45名以上が死亡。負傷者も30名を超える大きな被害を出した(大山口列車空襲)。
- ・同じころ米子駅も被弾。米子駅前の民家2か所にロケット弾が落ち、7名死亡。
- ・安来の島田トンネル、日立安来工場に銃撃投弾。この編隊は西を目指し、湯町水上基地(玉造)に500ポンド爆弾投下の後、12時前近くの布志名で避難中の機関車をロケット弾と機銃で空襲、多数の犠牲者を出し、大社(新川)基地も銃撃した。
- ・日曹米子工場、大谷変電所にもロケット弾や機銃掃射が繰り返された。
- ・境港の渡村では銃撃で3人死亡。

(被害状況は『鳥取県の戦災記録』を参考にしています)

**機銃薬きょう解説** 艦載機の報告書に、三柳の米子飛行場から1.6km(1マイル)以上離れたところにある林の中に多数の軍用機を発見し銃撃した、とあります。下の写真の20mm機関砲(下の大きい方)は、旧福生小学校近くの松林にあった木の中から発見されたものです。米軍の報告書にあった場所の可能性もあります。当時、旧市内の小学校高学年生は、各校の生徒が交代で、米子飛行場の飛行機を隠しにいくための道路整備に出ていたそうです。戦後の男子生徒たちは、町中に落ちていたこの薬きょう(銃弾を打ち出すための火薬がつめてある部分)を集めて遊んだそうです。

12.7 mm機銃の薬きょう(上)と20 mm機関砲の薬きょうと弾頭



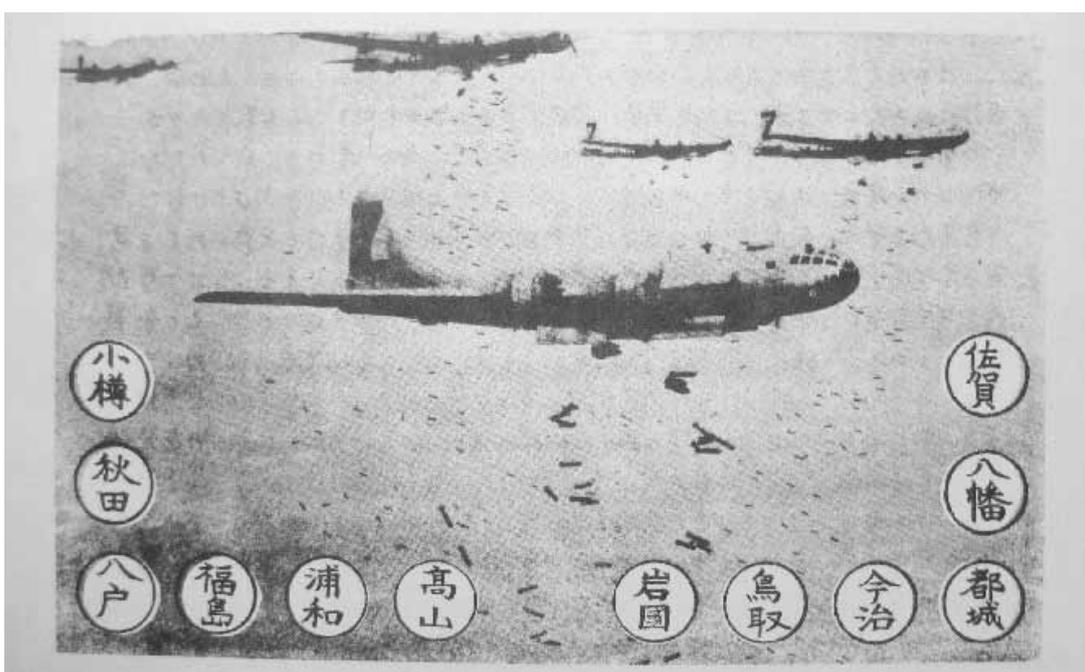
くわしゅうかんさい きすういちらん  
空襲艦載機教一覽

1945年7月	24日	25日	28日	(3日間)
空母ヨークタウン (88 隊)	6 機	24 機	37 機	67 機
空母シャングリラ (85 隊)	12 機	33 機	36 機	81 機
軽空母ワस्प (86 隊)			24 機	24 機
合計	18 機	57 機	97 機	172 機

第88飛行隊は空母ヨークタウン<sup>しよぞく</sup>所属。第85隊は空母シャングリラ、第86隊が軽空母ワस्पに所属していた飛行隊です。実際にはそれぞれの空母から飛び立った編隊が一つの大きな編隊となって、時間をずらして米子地方を空襲しました。艦載機の「<sup>せんとう</sup>戦闘報告書」からひろい出した数字が上記のものです。今後の調査研究で、もっと数が増えると思われます。また多くの目撃証言<sup>もくげきしょうげん</sup>のあるP-38などの陸軍機<sup>りくぐんき</sup>の情報が、いまだに米軍資料でも明らかになっていません。

きらいとうか  
B-29の機雷投下

下のビラは、1945年8月5日、鳥取市の仁風閣<sup>じんふうかく</sup>の敷地内<sup>しきちない</sup>に落とされたものです。爆撃<sup>ばくげき</sup>を予告した都市の中には「鳥取」の名前もありました。終戦がもう少し遅れていたなら、県内でもB-29の爆撃でさらに大きな被害が出ていたかもしれません。ビラ写真の中の爆撃機がB-29です。昼間の爆撃はなかったのですが、じつはマリアナ基地から発進したB-29が、夜中に米子地方に飛んできて、多数の機雷<sup>きらい</sup>を投下<sup>とうか</sup>しています。機雷とは、船が触れたり近くを通っただけで爆発する大型爆弾です。高い空から投下して水中に設置する仕掛け<sup>せつけ</sup>です。米軍資料の中には、6月と8月初めに、中海と美保湾<sup>ほわん</sup>に100発以上の機雷を投下した記録があります。6月には、島根半島<sup>しまね</sup>惣津<sup>そうづ</sup>の海岸に落とされた機雷を動かそうとして、16名が亡くなりました。



1945年8月5日、鳥取市内に投下された爆撃予告ビラ

ビラの大きさは縦 14 cm横 21 cmの両面印刷。裏側には「日本国民に告ぐ」という題で数日中に名前の挙がった都市を攻撃すると書いてあります。実際に今治や岩国は大きな被害を出しました。

## たまえまる 玉栄丸爆発事故

米子地方に空襲があった7月の3か月前の4月23日、境港の岸壁<sup>がんべき</sup>で、貨物船から爆弾<sup>つお</sup>積み下ろし作業中に爆発、近くの火薬倉庫<sup>かやくそうこ</sup>に引火してさらに爆発。死者115人、負傷者300人以上という大惨事<sup>だいさんじ</sup>がありました。この大爆発で境の町の三分の一が焼け、山陰地方最大の戦災被害となりました。この爆発事故は、空襲被害ではありませんが、地元では忘れてはならない戦争の記憶です。(下2枚が当時の写真)



毎年4月23日は境港駅近くの玉栄丸慰霊碑<sup>たまえまるいれいひ</sup>で、また7月28日には大山口駅構内の慰霊の碑<sup>いれいひ</sup>の前で、親族や関係者が集まり慰霊祭<sup>いれいさい</sup>が営まれます。現在では、当時のことを直接に体験した人は少なくなりました。

アジア・太平洋戦争の犠牲者<sup>ぎせいしゃ</sup>は、日本人だけで軍人と民間人合せて310万人。アジア全体での犠牲者はその何倍にもものぼるといわれています。悲しみの深さを犠牲となった人の数で計るのは正しい態度ではないのかもしれませんが。しかしこれだけたくさんの不幸な犠牲がどうして生まれたのでしょうか。戦争について、その実態<sup>じつたい</sup>について、まだまだ勉強しなければいけないことがたくさんあります。

米子市立図書館は、戦争と平和について学ぶ皆さんのお手伝いをしています。



大山口列車空襲 慰霊の碑